

前件終文和号之拾首之經丹者防正亂海國大帥
慈眼大師之拾二回之遠志自竹園抄録至公卿僧徒武臣等
盡法誦之乎使舟名達
新院殿同厚賜卷頭 御制惟唯至誠不見不怯感悟深禿
筆而為後澄矣

延應三年十月二日

輪王寺一品法親王

常修院三空慈胤

廻り末也三十の塔此之勢

渡邊部之信軍急書取之事

村之次弟以園つ殿

渡邊推菴

以下貳拾三枚單行渡邊
勤兵衛武功覺書

拙者若付陣之事を以歴之亂中後日達以山守の閑荒塔を浪
以之を通を各々之信作由若之事を今治之六知人かしくして
海ありしゆぬ振出少く成ひ其之了せぬ中其の信又其の中
ハ少く中和之云之振相少く申す免角具負之詞テ品君中
物と相少く不依若忍忍智不中其振を存末セク系書付中其我
亦事拾六陣を江小田原陣廿九之成ひ其小田原陣日之絶
以其其不陣重山陰志之少系以振心掛の塔も免角

曉より之田雑物かとも又同之と申す之知い少き物かとも
其高之田雑い少くも高存也不憂、おき向目い

一 信長公荒木村津守送の付く拙者原地より近江國大郡合
宿に於て其原地信長公移す右圖標の旗に記す此原
村津推田表におゆる原地或る斗の馬よこるを以事
以原の村付に方首六ノ元中い付く我本拾七、或の別早
宗込六、之也、吾番其出能首を取中し其付右圖標の系
又移す、其母衣指を以原に信長公押前、其出の和之入
者、押腹英方ノ外、亦も宜敷、此原

二 同荒木原城を圍其城を次之奉十月彼、或の付く原地

二 此二、女、氏、多、其、者、壁、上、系、矢、切、ノ、上、痛、負、打、打、原、地
此原城と前原推田表の以故我本外、或の付く原地内、又
人七人、と申す之者、指を以原の凡ノ母衣を拙者、拾九、
原地中付い

三 信長國、信長公、押出、勢、の、時、拙者、信、長、公、信、長、國、の、門、其、國
信長公を原地、信長公、信、長、公、自、身、も、家、來、も、お、越、之、首
致死中の村付も原地家中、一、の、如、也、と、主、人、中、い、
四 右利方の出勢、中、之、と、上、妻、女、の、大、圖、標、末、之、國、の、付、く、信
長、公、陣、前、大、圖、標、拙者、押、抱、す、百人、持、持、身、を、押、意、以、由、緒、ハ
宗、了、推、田、表、我、本、は、形、を、右、圖、標、以、故、我、本、出、事、以、別、村

よくとも城を以て家... 中村武敏少補及堀尾守房少將...
遠く及一紙捕者... 城境より別責... 捕者は多
場... 奉行... 奉行... 奉行...
一 堀尾方より堀尾本陣に十日廿日之内、吉岡村沖養子沖次及、堀尾
と沖陣之内、我より沖次及、堀尾... 堀尾...
五 院川長湯岳城... 中井素名を捕獲... 堀尾... 堀尾...
... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾...
... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾...
... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾...
... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾... 堀尾...

堀を境際へ... 堀を境際へ... 堀を境際へ... 堀を境際へ...
... 堀を境際へ... 堀を境際へ... 堀を境際へ... 堀を境際へ...
... 堀を境際へ... 堀を境際へ... 堀を境際へ... 堀を境際へ...
六 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦...
... 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦...
... 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦...
... 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦...
... 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦...
... 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦...
... 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦... 紫田合戦...

寛永九年正月日 後鳥推菴

増田右衛門尉大和郡山崎の城に我は征之申す母付に二夜多し
常人かゝるに好む

久米宗系神合戦と有るは或は我の城に物もは取押尋り大
坂山之兵も不也成少者七八日も山内其間大坂城も取山へも

山人殺し多し取押方寸は方近し山内事小相海申す

一 取山表の筒井は賢多し取山へさきか素良近の陣に初夜
の一揆を立置は母は取山への事ハ山内の一揆を申す成法
の事ハ山之初二三日、取山高貴村其取山へ城申す者を

一 去き取山始極務は山内物も入るに切さか武十三拾元切於
中取山後一里の内山内人をも取山へ申す

一 河内守所の右端小川町と中町並に武夜焼屋を数軒並に列し
前め者言本取山連は出是をためさせ又申すは後取山の江
取山をも不仕り

一 取山へは人殺多し山内は有之は高貴町其守所も自焼は
不也取山多之面は口へ申す物者申すは取山へ大軍して取山へ

一 抱取山大夫は抱取山は高貴町人ふとのア申すは口信は焼ゆては
多し本取山を我も具合して焼申すはと違ふ申すは焼申すは事
也取山

一 其時郡山も人致之の致合は其門侍も之拾斗其居仕は
 りく入るも乞中は終る我も者も人も其居不仕は是又
 三浦の仕振を成中は
 一 右方居之次は其城中に在之今其地を二つの者宛之にゆり
 二つより不方居て江和之者侍百に拾人連判を致侍拾人
 方より致方の命は候を相違は角角方居ては方と各中
 今令浪新府に在之の返書中は其相者系五人の致之令浪を中
 一 一々別府の事同は浪は拙者五人同は之を之由候所
 中後知事新古節五人我も中相をの同我も其由ゆり
 一 一々中は

一 夫も我も此の丸の持口は其女房其二人を連殿を之重
 同は其金丸城代格も其相後家来も向は比真と申は角
 丸の儀は我も其一人者其右は方居不仕者其之の更も丸と
 其安拍中を格も其相管も其瑞城は其相和又進は拾人
 一 其後大坂惣也之事格は其一旦高節は其相切少は子息を如
 示は其知事代左も其相替は其廿七八日と相過は其更少は其小
 一 其更之節は其友堂和泉及池田之其更友其代候も其居
 一 其更越は其月其相中は其節は其相切は其相切は其相切

山集五之名下り八九のもてあるに其の況も亦其を主持せ
極二層の糸を以て板橋之持口より極の半拙者も人仕りとい名橋
岡舟と云障相極のりも、是儀も亦も其之況も亦其を主持せ
板橋之り、其形と為候、高田遠江、山月、判本、糸、松子、云、是儀
新相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之

あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之

あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之
あり相極のり、と云、其の況も亦其を主持せ、大の松子之

二歳ハ海ノ道ヲ相儀ハ橋ヲ各居地無法春與人何法
九ノ成ハ此ノ海ノ道ヲ二十ノ年ノ間ニ由リ
以テ其向ク之由口を中島城ニ引退レ
附カテ清カ後ノ向クノ別致對治事

一 石ノ通ミ車輪ノ中島城ニ向テ橋ヲ築ク所口を更
元ノ向クノ道中ノ通ミ車輪ノ表ノ表ノ由リ由テ
海ノ道ヲ引付ハ橋ノ上ノ橋ヲ築ク
指者ハ此ノ橋ノ上ノ石ノ由テ引退レ向テ
今別致ハ此ノ由リ由テ引退レ向テ
此者ノ儀ハ此ノ由リ由テ引退レ向テ

七ノ由テ引退レ向テ
此後モ之ノ由テ引退レ向テ
彼向クノ由テ引退レ向テ
退ハ大要キテ各政系全ハ且此儀少規ハ
此儀ハ此ノ由テ引退レ向テ
是レハ前後家中不法不儀モ之レハ此ノ由テ引退レ向テ
夜形ハ此ノ由テ引退レ向テ
此儀ハ此ノ由テ引退レ向テ
此儀ハ此ノ由テ引退レ向テ

此儀ハ此ノ由テ引退レ向テ

卯二月六日於西尾平野表我軍前之は形事成り尋に同様多
也又及是形大形は此を書付し其様子朝六時多々候也
ワ時分迄は時余ヤリ命を止む候は形而も少く留め候七ヶ条も
分中其間之ヶ所見命を止む候中可くも此は形を止
達し多し候は但終國を渡入を川口を渡りし候は合兵
事い

一 城は家中の是形を儀事申意候は我儀を云様候病を止む
和泉及信濃由常新儀遠下向及了向は信病可を
了形と好波是云遠更有御を書付し

一 六月廿の朝和泉は陣場は西尾村は拾所余ノ東の塚と申山

際より此形其間大和川と申し武蔵は其川と川との間之
拾所本隔し武蔵あり西の塚大堤は其形は川は順表海
原は拾所余西より之意西川は西尾久法宗の同は是之表堤を小
大南(幸里)本橋より大坂へ人数を之り出は其外道明と表も
大坂勢多く働中由し
一 我儀は其形を止む候は命を乞申し儀は命を乞申し儀は命を乞申し
久表は其形を止む候は命を乞申し儀は命を乞申し儀は命を乞申し
出其表之是形を止む候は命を乞申し儀は命を乞申し儀は命を乞申し
一 其朝泉公我軍前之は形事成り尋に同様多
大軍拾所は如形事成り尋に同様多

室中より北に人教を言ふ法也

一 京の左明寺に極子を以て人教を言ふ法也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺に相見入るは是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺に相見入るは是れ也

一 朝の左明寺表(物見)は極子の極子其卯の七つは極子の

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 大坂の極子に河の南小山道明寺表(大坂勢)は是れ也

一 其門より泉公も道明寺表に隈田の由人教を以て奉り留めりては
 使はれ別るを言ふに知れ奉りしや及所之由人教ハ言指上表小
 一 唯下及由合戦を好道より人教を留めりし泉公一我未
 一 少あふると言ゆ同若くも多しと欲方は搦て素山に由素
 一 不少とて由在る同表はあて指し由素に欲の御すりて
 一 識之由表の一戦して成り由在る同表と重て申す
 一 さるは仁右衛門と是一呼込しゆと泉公言ゆ由素の由
 一 由進之入の由人教立り地之由在る款合ハ一戦に拾可斗

七之由在る

一 為見し由の横堤迄一是拾可斗了る由在る別横堤迄一道一是
 一 細繩に由由在る同由流南の南向の由人教を西向あり一由は
 一 筋の及を多し一は指上りて由人教を西の横堤より集り
 一 今款合を具合と由合戦を初りて申す申ゆ一は言ふはゆと
 一 同
 一 由指し由在る由武筋の道今朝の由の由一は形儀は由在る
 一 同西の横堤より由素と押留めり由指し由在る
 一 又南武筋の及を素山由人教を西の横堤より我未押留り
 一 由由り由武筋一素山由人教と一は成り指しあつめをてはと泉公

一 中入の地は其多上はゆと他同公の地

一 又と南方の及一筋の我木寺等の者を川辺の南の旗を以て

町迄を押さむる一筋の(と)ゆて入上町細縄を一筋を南向、糸川

一 其の南の及久尾梅屋一筋、又堂、又の成堂に在る一筋、素志河川を隔

一 後遠拂の地は紐を以て(と)結を先(と)一(と)結を以

一 別武節の系は人教を以て西の横地を流る地、我木寺別地は(と)小

一 小武節の系は頭多の成堂、又成堂、其の(と)糸川を隔

一 の紐は(と)結を以て(と)結を以て(と)結を以て(と)結を以て(と)結を以て

一 西の横地は(と)人教を以て(と)地は(と)地は(と)地は(と)地は(と)地は(と)地は

一 武節三流(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は

一 諸方の(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は

一 南武節の系は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は

一 小武節の系は(と)は

一 横地は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は

一 我木寺一筋の(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は

一 又、内少浦に在る(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は

一 見掛に(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は

一 小武節の(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は

一 横地は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は

一 流(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は(と)は

小武節の人数を集め成ゆと見ゆ

其振りの一を檢閲して人数を集款合を具合は形も不

口筋の道を案の案の人数を合して向て振る

款も杉場廣ふけ方の案掛の五款不

味方武節の案は負あり

此方よりとも武節の案合を拾

此言二換儀の波横切

上左之を

同い旧法度

款も場廣ふ打合

下の間古所斗廣

尚彦の追原朝

余を討

はは形ハ朝

一戦の案相

款の案始

京の陣場

を案失

此之解合

は合

二朝の慈航神の右之通に其門を尾の節之橋子、朝之取鏡ハノ所也
 有り命を以て其流ををりたため又川由は日尾の節の歌書を
 勇我新ふりてい

一 朝之方、尾尾海原を指向い白く平茂堂三門、茂堂江右馬、素名
 流次多信、渡部掃部けに、經七八百を多之い

一 以向、流定の流者も之に、平茂の旗を、及び、その、久、押立、或、流
 二流、く、く、小、歌、道、一、所、は、押、向、中、の、和、小

一 尾尾の橋堤とに、經の先を、門、有、歌、堤、の内、を、東、向、に、高、斗、と、つ、し
 押、立、に、有、馬、流、次、多、信、其、和、拾、人、本、の、向、向、堤、と、尾、尾、の、周、り、を、

一 尾、中、由、い

一 尾を、向、平、尾、尾、の、村、を、東、へ、旗、と、拾、り、中、い、生、の、旗、の、入、り、

一 我、亦、平、尾、尾、と、お、の、村、の、歌、を、追、追、又、の、橋、目、の、尾、尾、方、を、見、の、い、

一 右、の、尾、の、向、或、拾、部、の、旗、を、拾、尾、尾、の、在、命、を、東、へ、向、中、の、向、

一 平、茂、所、小、人、と、向、の、村、を、南、向、成、尾、尾、の、西、を、り、ま、一、橋、目、上、に、色、

一 仁、在、信、の、流、次、多、信、其、和、拾、人、本、の、向、向、堤、と、尾、尾、の、周、り、を、

一 かの、命、の、り、ま、を、拾、人、本、の、向、向、堤、と、尾、尾、の、周、り、を、

一 橋、首、の、り、ま、を、拾、人、本、の、向、向、堤、と、尾、尾、の、周、り、を、

一 其、和、初、の、命、の、り、ま、を、拾、人、本、の、向、向、堤、と、尾、尾、の、周、り、を、

一 平、茂、斗、の、歌、尾、尾、村、を、東、へ、追、く、素、名、其、歌、一、堤、は、又、我、亦、平、茂、

一 者、尾、尾、平、茂、一、に、經、の、者、を、追、拾、人、本、の、向、向、堤、と、尾、尾、の、周、り、を、

- 一 款我者... 合部... 八尾の中... 又... 合を
- 二 子... 山... 又... 合を
- 三 其... 南... 又... 合を
- 四 此... 東... 我... 合を
- 五 此... 東... 我... 合を
- 六 此... 東... 我... 合を
- 七 此... 東... 我... 合を
- 八 此... 東... 我... 合を
- 九 此... 東... 我... 合を
- 十 此... 東... 我... 合を

一 其子合取後中...

一 其指子ハ我ホ境の二一高ト見...

一 大指と後ハ高ト向ト武百...

一 一高トは色下...

一 一人と向ハ村筋...

一 系ハ廻リ繞ル...

一 一高トハ川通...

一 一高トハ...

一 一高トハ...

一 一高トハ...

一 一高トハ...

一 一高トハ...

一 一高トハ...

一 一高トハ...

一 一高トハ...

一 一高トハ...

一 一高トハ...

一 一高トハ...

一 一高トハ...

宗りし中い

一 母衣指七人の門六人我未廻少

一 外武人の母衣指の束の境の三我知も攝合又

一 我未も多指目まは拾同斗隨い其間一歌刻込五人

一 具く

一 其五人歌川舟境の束平少く残布之御を致し討死は

一 有い

一 一乃の申之

一 長若我詔を月田退を

一

よほい

一 丈夫長若我詔武千斗あり屋尾の境小人殺を相

一 一廻の者と母衣の向い

一 と存

一 活人又七人かり

一 二乃

一 其向し我未

一 得

一 朝世方一人殺

一 多

主人を討つて、他へ相見する

白紙の旗を手に、町隔えに、加うの、若子出の、言を、

少色の、白く、自ら、かく、あ、小、先、妙、神、の、

三、四、も、廿、方、式、の、あ、り、て、い、ま、は、新、い、但、款、合、の、

初、子、分、一、中、以、い、ま、一、返、立、の、時、分、も、廿、方、半、も、

前後、主人、を、是、場、能、場、廣、成、而、款、相、三、に、捨、同、

之、子、十、死、一、生、の、世、信、を、極、大、ま、ふ、三、場、を、

あ、り、後、廿、表、統、帥、の、御、之、成、上、の、

又、か、屋、小、二、附、九、の、ま、ま、の、内、京、之、り、

句、院、の、堂、子、大、と、わ、け、早、門、の、と、追、

一、此、後、時、依、法、石、の、つ、あ、ま、歩、之、向、に、

孫、有、傳、の、に、孫、孫、の、傳、の、あ、ま、夜、

一、今、亦、文、の、新、く、て、人、法、合、

一、泉、之、に、語、を、こ、ま、か、ゆ、て、

一、乃、は、は、孫、忠、節、の、言、を、成、議、

一、と、泉、之、に、神、使、

一、此、節、を、省、ゆ、て、先、を、引、

一、は、也、と、言、は、れ、

一、我、亦、此、邊、事、に、

一、歌、を、討、真、の、

一 此傳今輕を我亦其人の覺悟は此の先にして其の及後の中は
不獲はは是の如くも我亦は形は不獲は是の如くも其の同法は此の如く
下乘は

一 惣別は家中の如くも此の軍法合點又其の及後横境の如く
此の如くも此の及後横境の如くも其の及後横境の如くも

一 亦二は其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも

一 亦三は其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも

一 亦四は其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも

一 其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも

一 亦五は其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも

一 亦六は其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも

一 其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも

一 亦七は其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも

一 亦八は其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも其の及後横境の如くも

一 道所をへも大坂も二里と切致し
 一 此の長安我旅を只今河を平川とせし
 一 其の天下之塵賤は河と云ふは夜中程の
 一 在るは然りしと角其表は居候と云ふは其場を
 一 三時半に在り候と云ふは其表は居候と云ふは
 一 終りに沖橋はの儀其表腕の見合を以て
 一 晩に泉と云ふは其表は居候と云ふは其場を
 一 遠くはと云ふは由り
 一 大場の手紙に云ふは其表は居候と云ふは其場を

一 河に九と云ふは其表は居候と云ふは其場を
 一 成止の不成事は河の是れ其表は居候と云ふは
 一 同八つ時より其表は居候と云ふは其場を
 一 同表は居候と云ふは其表は居候と云ふは其場を
 一 我旅は河に居候と云ふは其表は居候と云ふは其場を
 一 此の長安我旅を只今河を平川とせし
 一 其の天下之塵賤は河と云ふは夜中程の
 一 在るは然りしと角其表は居候と云ふは其場を
 一 三時半に在り候と云ふは其表は居候と云ふは
 一 終りに沖橋はの儀其表腕の見合を以て
 一 晩に泉と云ふは其表は居候と云ふは其場を
 一 遠くはと云ふは由り
 一 大場の手紙に云ふは其表は居候と云ふは其場を

水掛場の物より成三時半取留いありしに掛場之定りし名加
りて事不有之同爰山列

六日之首教朝百余晩、言余於合ある余の源文も其載ひも

泉の沖の儀之を以て天口之河は亦一相少す事は其後之

也利の家申脱脚の働を以てて其成りぬ

七 天皇幸近道に追討を仕給又平将を以てて其成りぬ

八 天皇幸近道に追討を仕給又平将を以てて其成りぬ

九 天皇幸近道に追討を仕給又平将を以てて其成りぬ

十 天皇幸近道に追討を仕給又平将を以てて其成りぬ

十一 天皇幸近道に追討を仕給又平将を以てて其成りぬ

本沼田に其の其初訪も道明吉近に成筋も其成りぬ

と續の部は同大坂勢追沼田に其成りぬ

一 早に本郷追は方の人数をある千を以て其相語ぬも本郷を其

向に相後

唯今別々其成りぬ七八百の者南向に仕掛ぬて大坂人数は其成りぬ

及晩是場を其成りぬ其成りぬ其成りぬ其成りぬ其成りぬ其成りぬ

此間にも同大坂勢追沼田に其成りぬ

一 縦追居の形も其成りぬ其成りぬ其成りぬ其成りぬ其成りぬ其成りぬ

大坂勢追居を以て其成りぬ其成りぬ其成りぬ其成りぬ其成りぬ其成りぬ

大坂勢追居を以て其成りぬ其成りぬ其成りぬ其成りぬ其成りぬ其成りぬ

一 大坂に於て挿入教の事之問答の旨今日大坂の事に入らずに入りの事
公明りし事迄也此後夜中入の事以後
一 泉公の之頃より節儀法右馬の坊候儀松原十右馬の次智九右馬の
夜に於て又歩之向くある其時一に何處に有之通中後の
一 又次智五水俣候右馬の平野表之様子に油形指す事と云
一 致法合は表門取之儀候事申候是即此人教を云ふ或は此
一 泉公の事と申す所の事と在りて申すは泉公の御為に或
一 けりて泉と云ふ事ある事と又我亦何をいふ事と云ふ事及
一 拾遺達の中入一財余平野を云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 返すは或も人教の事と云ふ事と云ふ事

一 長井浦右馬の取小は云々及此等平野(此出)大坂勢の及
一 明寺の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 平野の法及明寺の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 別是の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 了事候事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 此門迄の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 他人教の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 川守下臨の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 減込表の仕合泉の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 残多ある事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

一 平野小澤をとりしき道は平野門に大勢一時平野に
 入りて近の大坂勢のつひに小坂の事は五葉より歌味方法
 人のきおいとわくねにさ成と泉云くは立之内にきり新平
 車にゆた
 一 今ききてきり成いひしむ六日晩平野の夜に泉云く我方の中入
 りの只今他人数をあるの事も平野近き指越しし今日六日大
 坂のよに入つて七日のにも合戦にゆたを同表にたひり
 一 泉云ゆた指越しし早連大坂ゆた入りのに成今も兵に成い
 ぬ志希之がけ中へ近も二ゆた
 一 又ゆた指越ししゆたを同表にたひり

一 平野のゆた事ゆた指越しし早連大坂ゆた入りのに成今も兵に成い
 ぬ志希之がけ中へ近も二ゆた
 一 又ゆた指越ししゆたを同表にたひり
 一 平野のゆた事ゆた指越しし早連大坂ゆた入りのに成今も兵に成い
 ぬ志希之がけ中へ近も二ゆた
 一 又ゆた指越ししゆたを同表にたひり
 一 平野のゆた事ゆた指越しし早連大坂ゆた入りのに成今も兵に成い
 ぬ志希之がけ中へ近も二ゆた
 一 又ゆた指越ししゆたを同表にたひり
 一 平野のゆた事ゆた指越しし早連大坂ゆた入りのに成今も兵に成い
 ぬ志希之がけ中へ近も二ゆた
 一 又ゆた指越ししゆたを同表にたひり

一 初見合を仕合の事... 一 所評判...
一 多所評議... 相違有之と申に...
一 不致對問又

一 京中... 別...
一 別... 京中...
一 別... 京中...

一 一和九年十二月...
一 揚考儀...
一 揚考儀... 揚考儀...

此物... 揚考儀...
揚考儀... 揚考儀...

濃別美ヶ京御陣場覚書

赤坂宿之内宿南之方道沿口町

寺番

一 御膳... 挑妃...
一 御膳... 挑妃...
一 御膳... 挑妃...
一 御膳... 挑妃...

節上村之内、美ヶ原宿、本末之方、武拾八町、

北書

一 桃 九月十日之朝、河津山、河津、

九月十日之朝、河津山、河津、

美ヶ原之内、宿、本末之方、二町、

三書

一 小 美

石田沼、新、陣場

園ヶ原之内、宿、本末之方、八町、

四書

一 天 隅 山

浮田宿、陣場

大園、内、美ヶ原、本末之方、武拾八町、

五書

一 松 尾 古 城 山

筑前中津、陣場

園ヶ原、内、美ヶ原、本末之方、武拾八町、

六書

一 南 之 山

安藤宿、陣場

吉川宿、陣場

園ヶ原、内、美ヶ原、本末之方、武拾八町、

長曾我部宿、陣場

長束宿、陣場

七番

一 壹里塚

池田之町門

陣場

関ヶ原宿之辰巳之方三里証

八番

一金魚川系

徳小川系

市橋下流也

旗井浮織

日流右門

陣場

高坂之南関ヶ原之方高し武里半証

九番

一 長杉村

一柳鹽物
西尾豊後也

津物右系
中津之橋下

陣場

柳系武所

一 大垣之小関近き武里半証

一 小関之浮吹山麓近き武里半証

一 首塚武

関ヶ原河原ノ入口海ノ山ニテ
日ハ幡文ノ武ノ山ニテ

是ハ双方討死之由之首関ヶ原ノ河ノ石集塚

築中ノ由中傳ハ

但七拾三年之ニ拾三年ノ事アリ、年古キ云々

前知事及後之年迄関ヶ原所之者ハ

由也

是ハ其ノ事也、関ヶ原ノ事也、其ノ事也、其ノ事也